

心のみ

第63号 2017. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	2	四年を迎えて	阿武隈川上流土地改良区	15
新年のご挨拶	会長 湯浅裕治	2	感謝と笑顔を忘れずに	宮田 洋	15
新年のご挨拶	会 長 湯 浅 裕 治	2	今年は主役の1年	会津北部土地改良区	16
本年も「闘う土地改良」で全力	専務理事 櫻田浩二	4	新会員のみなさんより	羽金明美	16
第40回総会	参議院議員 進藤金日子	4	土地改良区職員とあなたのご挨拶	伊藤 慎之介	16
会員の皆様お世話になりました	そうま土地改良区 (福島県土地改良団体職員連絡協議会 前会長)	8	20年ぶりの改良区です	四時川沿岸土地改良区	18
永年勤続	遠藤喜雄	8	土地改良区職員となって	母畑地区土地改良区	18
勤続10年	阿武隈川上流土地改良区 中山智子	9	よろしくお願いたします	請戸川土地改良区	18
30年目の節目に思う	鮫川堰土地改良区 馬目善市	10	改良区に勤めて	請戸川土地改良区	19
20年前を振り返って	水土里ネット福島 三浦功司	10	宜しくお願いたします!	安積疏水土地改良区	19
20年を振り返って	水土里ネット福島 牛坂誠一	11	第二の人生	菅野真陽	19
第39回全国土地改良大会石川大会開催	「水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」	12	土地改良区業務に携わり	三好敦博	20
年男・年女	新年に思うこと	13	新入会員です	小山田育生	20
人生、足るを知る	水土里ネット福島 安田明	13	土地改良(区)ってなに?	昭和村土地改良区	21
抱負宣言	矢吹原土地改良区 後藤庸貴	14	宜しくお願いたします	馬場 栗城進也	21
	酒井勇司	14	よろしくお願いたします	大川原正義	22
			よろしくお願いたします	鈴木信良	22
			よろしくお願いたします	渡邊亮太	23
			よろしくお願いたします	小林憲都	24
			よろしくお願いたします	石黒吉亜	24
			よろしくお願いたします	浪岡裕太	25

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会
会長 湯浅裕治



新年明けましておめでとございます。

会員の皆様には、希望に満ちた平成二十九年の新春を迎えることができたことを心よりお祝い申し上げますとともに、本協議会の運営に対し特段のご支援とご協力を賜り深く御礼申し上げます。

本協議会の平成二十八年度の総会は、七月十四日に郡山市磐梯熱海温泉「四季彩一力」において、来賓のご臨席のもと開催し、十五名の永年勤続会員の表彰が出来ましたことは本協議会にとって大変喜ばしいこととあります。

さて、近年の農業農村は、後継者不足や気候変動による災害の発生など多くの課題に直面しており、持続可能な農業の実現のためにも、適切な農業水利施設等の維持・更新が必要となっております。

土地改良事業に携わる我々には、食の安全・安心や農業農村の多面的機能を発揮するため、農地や農業水利施設等の地域資源を健全な状態で次世代に継承する責務があると思えます。

世界経済が低迷する中、先進国では保護主義が台頭し、アメリカが環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）から離脱を表明したことで、TPPが発効するか不透明な状況になっておりますが、政府は多国間での自

由貿易に前向きな姿勢を崩しておりません。また、経済界からは、TPPを推進する声があり、今後も、日本の農業にとって、厳しい状況には変わりはありません。

しかしながら、昨年七月の参議院選挙では、九年ぶりに土地改良政治連盟推薦で、土地改良の代表として進藤金日子氏を国会へ送ることが出来たことは、ひとえに、土地改良事業に携わる会員皆様のご尽力の賜であります。

進藤金日子氏は「政治で奪われた予算は、政治で取り戻すしかない」と強調し、「後継者不足や農産物の価格低迷など、農村の課題は複雑化しており、それらを専門知識で整理して横糸でまとめる役割を担いたい」と訴えておりました。

民主党政権下で、大幅に削減された土地改良予算については、二階全土連会長のご尽力により復活はしておりますが、削減前の水準には達していません。

また、二階全土連会長は、「要望を実現するためには、いつまでも下を向いているのではなく具体的な行動を起こすことが重要だ」と仰っており、土地改良区等も今まで以上に、土地改良事業について、地域の方々に土地改良事業の重要性を発信していかなければならないと思っております。

申し遅れましたが、私は、この度の第四十回総会におきまして、遠藤喜雄前会長の後任として会長に選任されました。

本協議会の会長という職責の重さを改めて痛感しているところであり、副会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様のご指導を頂きながら努めてまいりたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

最後に、本年が会員の皆様にとりまして、よりよい年となりますようご祈念するとともに、益々、御健勝で土地改良事業でのご活躍を衷心からご期待申し上げます、年頭の挨拶といたします。

新年のご挨拶



みどり
水土里 ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 櫻田 浩二

あけましておめでとうございます。

大震災から五年九ヶ月が経ち、復興・創生期間の一年目が終わろうとしています。今も大震災からの復旧・復興に取り組んでいる皆様方からの敬意と感謝を申し上げますとともに、未だに避難生活を送っている二万人の子どもたちを含む八万四千人を超える県民や、津波被災と原発事故からの復旧・復興の途上にある相双地方で暮らす方々に、一日も早く、安心して日々の生活を重ねることができると生活環境が戻ることを心からお祈りいたします。

福島県の人口は、平成十年一月の二百十三万八千人をピークに減少に転じ、昨年十一月一日の推計人口で戦後初めて百九十万人を下回りました。人口減少に歯止めを掛けるためには、地域に、若者が働き生活できる場所を確保しなければなりません。何よりも、福島県の基幹産業に位置づけられている農業が、若者の就業先に選ばれるようにならないければ、地域の人口減少に歯止めを掛けることはできないと考えます。高齢

化と後継者不在で就業人口の減少が進む産業の最先端に行く農業で、就業人口の減少に歯止めを掛けるためには、後継者が結婚して子どもを育む生活ができる農業の姿が必要です。

国では、収益を確保できる農業を目指して、農地の集積と水田の畑地化による高収益作物導入を目指した政策を展開しています。水稲と水田の畑地化による畑作を組み合わせ、一年を通して、労働力と機械の稼働を分散し、効率のよい、収益のあがる農業経営を実現するために、高収益作物を導入できる水田畑地化の整備を推進しています。隣の山形県では、平成十三年度から県営及び団体営の水田畑地化基盤強化対策事業を実施し、積極的に暗渠排水+地下かんがい施設による水田の畑地化と高収益作物の導入を進めています。

今後、高齢化と後継者不在により耕作者のいなくなる農地がますます増えていきます。担い手への農地集積は待たなしの状況にあります。が、若者の就業先となる農業を創生していく絶好の機会でもあります。企業誘致がなかなか進まず、逆に撤退する企業も出てきている中、県・市町村、そして土地改良区やJAなどの行政や農業関係団体と地域が一体となって、食える農業、生活できる農業、結婚して家庭を築き、子どもを育むことができる農業を創生していくことが、一番の地域の人口減少対策であると考えます。

子どもたちの声が響く明るい農村の初夢が現実になることを願うとともに、今年が皆様にとってより良き年になりますよう、皆様方のご健勝とますますのご活躍をご祈念申し上げ、新年の挨拶いたします。

本年も「闘う土地改良」で全力



参議院議員

進 藤 金日子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

土地改良に関係する方々が心を一つにしていたいただいた昨夏の結果を胸に刻み、今年も皆様のご期待に著実に応えることができるよう努力してまいります。

また、昨年は、四月の熊本地震被害、八月の北海道・東北を中心とした台風被害などがありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

このような地殻や気候変動等に起因すると思われる地震・豪雨災害等が頻発していることから、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題であり、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していかねばなりません。そのような意味も含めて、土地改良にとって本年は、制度的にも予算的にも極めて重要な年となります。

まず制度です。第一に昨年八月に閣議決定された土地改良長期計画実施の初年であり、目標達成に向けて確実に所要の成果を確保していく必要があります。第二に昨年十一月に改訂された「農林水産業・地域の活

力創造プラン」と新たに策定された「農業競争力強化プログラム」に基づき、着実に施策を実施していく必要があります。その中で土地改良制度の見直しとして、農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業制度創設、国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件（十五人以上）の廃止、水利施設の突発事故に係る事業やため池等の耐震化事業について原則農業者の費用負担や同意なしに事業実施が可能となる仕組みの創設、一定の機能向上を伴う更新事業について同意徴集手続を簡素化する見直しなどが盛り込まれています。これらは今後、土地改良法を改正した上で順次実行されていくこととなります。

次に予算です。農業農村整備事業費は、今年度補正予算で大幅な追加がなされ、更に平成二十九年当初予算の概算決定で前年比二百億円の増額が確保され、補正と当初を合わせて民主党政権前の予算規模となりました。基本的に、補正予算は予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待ちをしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。福島県においては、東日本大震災関連の事業費は十分確保されているものの、通常の農業農村整備事業費は、継続地区の進捗及び新規地区の着工について皆様の要望を満たすことができない状況にあります。これらを解消するべく、引き続き、補正予算確保と当初予算のさらなる増額に向けて闘ってまいります。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいます。私も、引き続き「闘う土地改良」の先頭に立つて全力を尽くし、皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいります。今年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年の挨拶といたします。

第40回総会

福島県土地改良団体職員連絡協
議会第40回総会は、平成28年7月
14日(木)午後1時30分から郡山市
「磐梯熱海温泉 四季彩一力」にお

いて開催された。
湯浅裕治副会長(会津北部土地改
良区)の開会宣言により開会し、遠
藤喜雄会長(そうま土地改良区)の



会長挨拶

挨拶の後、永年
勤続者表彰が行
われ、表彰状の
授与及び記念品
が贈呈された。
表彰された
方々は別頁のと
おりです。受賞
者の皆様の御健
康とますますの
御活躍をお祈り
いたします。
表彰式後、来
賓の福島県中
農林事務所農村
整備部長村上佐
俊様、福島県土
地改良事業団体
連合会専務理事
櫻田浩二様より
祝辞をいただき

た。

議長に江花川沿岸土地改良区の
安田勝男氏が選出され、挨拶後議事
に入った。

議案第1号「平成27年度事業報
告の承認について」、議案第2号「平
成27年度収支決算の承認について」
が一括議題として出され、事務局の
説明、橋本雄司代表監査員(須賀川
市土地改良区)の監査結果報告の
後、原案のとおり承認された。

議案第3号「平成28年度補正予算
(案)について」、議案第4号「平成
29年度会費・協賛金の額及び徴収方
法(案)について」、議案第5号「平
成29年度事業計画(案)について」、
議案第6号「平成29年度収支予算
(案)について」は事務局の説明後、
いずれも原案のとおり承認された。

議案第7号「役員の変更につい
て」は、選任方法に事務局案との声
があり事務局より候補者の案が提示
され、採決の後選任された。別室に
おいて会長・副会長・代表監査員の
互選会が行われ、会長に会津支部・
会津北部土地改良区の湯浅裕治さ
ん、副会長に県南方部・阿武隈川上
流土地改良区の宮田洋さん、いわき
支部・愛谷堰土地改良区の菅波孝光
さん、土地連の渡辺隆さん、代表監

査員に鮫川堰土地改良区の大井川和
弘さんが選任された。※新役員は別
表のとおりです。

新役員の皆様には、本協議会の円
滑な運営のためご活躍いただきます
ようよろしくお願いいたします。

総会は、宮田洋副会長(阿武隈川
上流土地改良区)の開会宣言により
終了した。



業務研修会

業務研修会では、福島県立医科大学医学博士大平教授の「これからの生活をより楽しく健康に」で、笑いが健康に及ぼす効果や笑い方と体操を組み合わせた講義を受け、参加者全員で「笑う」＋「健康」のことを学んだ。水土里ネット福島総務課斎藤課長補佐の「複式会計について」では複式会計、減価償却計上の方法等を学んだ。



2日目の現地研修では、安積疏水土地改良区の土地改良施設、十六橋水門、上戸頭首工、田子沼分水工を視察した。

福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

(平成28年度～29年度)

役職	氏名	所 属	方部
会長	湯浅 裕治	会津北部土地改良区	会津
副会長	宮田 洋	阿武隈川上流土地改良区	県南
副会長	菅波 孝光	愛谷堰土地改良区	いわき
副会長	渡辺 隆	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹事	小山 絹枝	福島市土地改良区	県北
幹事	三瓶 甚一	安積疏水土地改良区	県北
幹事	市川加代子	安積疏水土地改良区	県中
幹事	荒海 裕一	郡山市東部土地改良区	県中
幹事	近藤 勝広	表郷土地改良区	県南
幹事	五十嵐賢一	会津若松市湊土地改良区	会津
幹事	渡部 和徳	雄国山麓土地改良区	会津
幹事	鈴木 勝	布藤堰土地改良区	会津
幹事	斎藤 昌教	阿賀川土地改良区	会津
幹事	山内 翔	只見町土地改良区	南会津
幹事	鈴木 大輔	富岡町土地改良区	相 双
幹事	川村 初子	飯館村土地改良区	相 双
幹事	渡辺 強	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹事	鈴木 浩	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	大井川和弘	鮫川堰土地改良区	土地連
監査員	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	中通り
監査員	大竹 伸明	会津大川土地改良区	会津

永年勤続者表彰

30年勤続

安積疏水土地改良区
 中島村土地改良区
 柳津町土地改良区
 鮫川堰土地改良区
 福島県土地改良事業団体連合会

市川 加代子
 沢田 和広
 小島 貞彦
 馬目 善市
 目黒 良則

20年勤続

安積疏水土地改良区
 安積疏水土地改良区
 福島県土地改良事業団体連合会
 福島県土地改良事業団体連合会
 福島県土地改良事業団体連合会
 福島県土地改良事業団体連合会
 福島県土地改良事業団体連合会
 福島県土地改良事業団体連合会

横澤 勇
 国分 文美
 斎藤 佳久
 牛坂 誠一
 三浦 功司
 菅野 勉
 長澤 幸江

10年勤続

阿武隈川上流土地改良区
 福島県土地改良事業団体連合会
 福島県土地改良事業団体連合会

中山 智子
 塩田 有子
 山田 郁恵



会員の皆様お世話になりました

福島県土地改良団体職員連絡協議会
前会長 遠藤喜雄
(そうま土地改良区)

慶禧萬福、希望に輝く新春を迎え、心からお慶び申し上げます。

平成26年度より会長職を引き継ぎ2年間努めさせて頂きましたが、その間、会員の皆様には特段のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます次第であります。特に役員並びに事務局の皆様には、ひとかたならぬご指導を頂き厚く御礼申し上げます。

今回、「むつみ」への寄稿依頼をいただき、文筆能力の乏しい私には苦悩の一言でしたが、お世話になった皆様へ御礼の挨拶として執筆させていただきました。

さて、私は、平成22年度より相双方部会員の代表として職員連絡協議会の幹事に就任した訳ですが、同時に副会長という重責に就き、何も解らず右往左往しながら事務局の方々に大変ご迷惑をお掛けしたことが思い出されます。協議会役員6年間は、私の人生の中で貴重な経験をさせていただいた時間でした。大勢の前で話をするには緊張もありますが、如何にして皆さんが聞き易く惹きつける話が出来るか等、大変勉強させていただきました。

また、多くの会員の方々と接することで、土地改良事業に対する熱意や奮闘が感じられ敬服させられました。

現在、協議会の会員は270名程居られますが、多くの会員が会議や研修に参加していただき、会員相互の交流を通すことにより自らが抱えている諸問題が解決へと導かれれば、協議会の寄与するところだと考えます。また、協議会に未加入の方が居られれば、是非とも加入されて同業職員とのコミュニケーションを図っていただきたいと願っています。

昨年、アメリカ合衆国の大統領選挙で大方の予想を覆してトランプ氏が当選され、就任後にはTPPから離脱を宣言するとの報道がありました。また、昭和45年から始まった国による生産調整（減反政策）は、平成30年産米から廃止となり、生産者の自主的な取組に移行することから、今後のTPPや生産調整、そして東日本大震災の復旧復興、風評被害等々、農業を取り巻く状況は厳しいですが、会員皆様のご活躍を願っています。

改めて会員皆様並びに役員、事務局の方々には心から感謝を申し上げ、職員連絡協議会のみますのご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

皆様、有り難う御座いました。深謝。

永年勤続

勤続10年

阿武隈川上流土地改良区
中山 智子

皆さま、明けましておめでとうございませう。昨年は永年勤続表彰を頂戴し、ありがとうございます。これも入所以来温かく支えてくださった改良区の役員さん、総代さん、宮田事務局長、組合員の皆さん、関係機関の方々、家族のお陰という感謝の気持ちと、土地改良区職員として勤続10年というキャリア分だけこれからはしっかりと生きてはという自覚を深める機会となりました。

私は入所とほぼ同時に結婚し、泉崎から須賀川に嫁いで白河須賀川間を勤続と同じく10年間通勤したわけですが、震災を機に主人が私の実家

で就農したことから通いで農業は出来ないし生活拠点を実家の近くに移動することになり、夫婦と子ども2人の暮らす小さな家を建て昨年春に転居しました。南を向く新居の前は阿武隈川の堤防まで一面田んぼというロケーション。早朝の川霧に霞む八溝山系は幽玄で、まさに田舎の一等地。

その新築祝いに近くに住む親戚のおばさんが趣味で描いた油絵を下さるとのことので、1枚選ばせていただきに伺いました。どの絵も心静まる絵でとても良かったのですが、私がどうしても選んだ絵は阿武隈川に掛かる穴堰と那須連峰の初冬の風景画。穴堰は私の故郷の関平耕地に水を引くための堰で泉崎と白河の境にあり、その那須の峰の姿も幼い頃から心にある原風景そのもの！頂いて帰り、玄関に飾りました。

故郷の風景を作り出すこの川。その流れの源流（厳密に言えば支流である鳥首川を堰き止めた地点）にあるのが阿武隈川上流土地改良区が管理している西郷ダムです。当たり前

のように田植え時期になると満々と水路を流れてくるこの水を苗箱を洗う手伝いをしながら不思議に思い父に聞いたのは小学生の頃でした。ダムが出来る前には代掻き前に水口を番するため田んぼの畔に寝たこともあると聞きました。冬の間田んぼのための水を湛えてくれている故郷の先人の遺してくれた西郷ダムは受益地の人々の穏やかな性質をも培ってくれているように思えます。

ところがダムも竣工60年を迎え、近頃はダムの無かった時代の水の苦労を知らない方が増えてきたように感じます。ダムの有難さあつての賦課金徴収率100%もこれからは難しくなっていくかもしれませぬ。勤続10年の節目に私の元へやってきたこの絵を朝晩玄関で見る度に故郷の農業の生命の水を守るといふ使命感を新たに、これから頑張っていくと考えています。



今年は何年。課題の改善解消解決に向けて運気をとり込みしっかりと働いていきたいものです。会員の皆さまも稔り多い1年となりますようお祈りいたします。本年もよろしくお祈り致します。

『むつみ』の紙面では小さくモノクロになってしまふと思いますが、我が家の玄関の絵を添付いたします。どうぞお近くにお出での際は本物をご覧にお立ち寄り下さい。

30年目の節目に思う

鮫川堰土地改良区
馬目善市

縁あって鮫川堰土地改良区にお世話になって30年の年月が過ぎようとしております。長かったようで短かった複雑な時間を感じられます。本当に、現在まで勤められたのも先輩や役員総代、関係各位方々のご指導ご協力の賜物と感謝しております。

私が、改良区に入ったのは、昭和50年から約40億の巨額の工費を投じ、県営かんがい排水事業も終盤にさしかかった頃で、改修区間の約8割が完成し、難関の銅谷隧道や最終区間の水路が残された状態でした。

当時の私は、毎日のように現場や水路の通っているところに先輩と出向き、教え導かれながら位置関係や通水の状態を確認し覚えていました。そのため、かんがい区域の組合員とも親しくなり、円滑な業務を行える

ようになっていきました。その後の改良区単独で行う改修工事も、今までの経験を生かし、仮設水路を設置しながら未改修区間を、年次計画で上流より改修して災害に強い水路へと変貌させてきました。

通水して約80年の月日が経っているわけで、老朽化した箇所などいたるところが傷んでいる当改良区の水路は、現在仮設水路ができない区間を、試行錯誤を繰り返しながら、水路の若返りに取り組んでおります。

都市化や耕作放棄のため、かんがい区域・組合員の減少によって残された組合員の負担増につながっているという問題もありますが、何とかこのままの状態を維持管理できれば将来に向けて安心なのだと考えられます。

また、昨年度から、農林事務所のご指導のもと、国庫補助で、農業水利施設の調査も行っております。何十年も調査ができないところを、土地連の方々が調査をし、大変厳しい状態を目の当たりにして驚いている所もあります。診断結果によって、どのような事業で行うかわかりませんが、水路が改修・改善されれば組合員の皆様にとって、更に利用しやすくなると思っております。

TPPや農産物の自由化で第一次産

業が衰退していく中、福島県の米のブランド化が必要になると思う昨今、福島県の清流、鮫川の清流で、米や農作物を作る一翼を担えれば嬉しい限りです。鮫川堰の水路は、1年を通し通水しているの、安心安定的に供給し続けなければならぬため、その滾々とした清流を次世代に繋ぐことが、私に課せられた任務と思っております。

20年前を振り返って

福島ネット里水
三浦功司

私が本会に入りましたのは、平成7年4月です。

この年の1月には「阪神・淡路大震災」がありました。

その1月17日の朝、私は東北大学病院におり、手術室に向かうストレッチャーの上で『大きな地震があったみたいだよ。』『神戸が燃えているよ。』という声を聞きながら、病室を出ました。

そして、手術室用の台に冷凍マグロのように転がされて移動しました。

その後の入院生活では、ラジオをつけても行方不明者の名前を読み上げられる声ばかりでした。

私が本会に初めて来たのは3月20日です。

雇用条件について話をすると、この事務所を訪れてから家に帰り、テレビをつけたら『東京の地下鉄で異常な事件が起こっている。』『酢酸エチルが検出された。』『アセトニトリルが検出された。』というニュースが流れていました。毎日のように使っているたいして毒性もない薬品なのに、何が起きているのだろうと思っていたら、これが地下鉄サリン事件でした。

勤続20年といえば、新卒で入ったから折り返しの年代ですが、私の場合はその折り返しの年代の少し前での転職でしたので、ゴール間近の年代となりました。

私の前職は化学メーカーの研究職でした。

世界最先端の研究もしているような研究所（相模中央化学研究所）に出向させていただいてから会社に戻り、労働組合の委員長をしてもう少して管理職かなという時にバブルが崩壊しました。そして、会社の存続が疑わしくなっていた折に、本会から転職のお誘いがありました。

『計量証明事業所の登録をしたかったので、計量管理者になってほしい』というお話でした。

管理者としての採用でするので、「当然管理職」と考えていましたが、地下鉄サリン事件の日に、『専門技術者でと考えていたが、主査からではどうか』といわれ、1年目ぐらいはいいかという気持ちで訳もわからずに承諾してしまいました。

入ってみたら施設は未完成、機材も薬品も人材も何もそろっていない状態で、『一人でなんとかしてくれ。』ということになりました。

言われることは、『サリンは作れるの。』『サティアンの準備しての。』ということだけで、計量証明事業所の立ち上げについては、本当に一人でやるしかありませんでした。サリンは作れると思います。入手

が難しいような薬品は要りません。前職で研究室にあった薬品だけで合成分は可能だと思えます。でも、できたときに健康で生きている自信はありません。

20年を振り返って

水 土 里 ネット 福 島
牛 坂 誠 一

月日が流れるのは早いもので、福島県土地改良事業団体連合会に勤務する様になりました。

思い起こせば阪神淡路大地震と地下鉄サリン事件の起こった年であれからもう、20年も経ったのだと驚いてしまいます。

私が社会人として初めて勤務する事になったのが「測量課」で、業務内容は「確定測量」でした。まず、驚いたのが現場の広さでした。初めての現場が1,000haであまりの大きさに圧倒されてしまいます。

現場に行っては迷子になり、迷っては怒られ、来る日も来る日も杭打ち、杭打ちで、トランシットと格闘する毎日で、現場は、暑いし寒いしで体力勝負の毎日でした。最初は本当にやっていけるのだろうか？と思う様な私でしたが、8年の歳月が過ぎ、一通りの測量を経験した時に「農村整備課」に移りました。

「農村整備課」は主にほ場整備の設計を行う部署で測量の経験しかない私にとっては、ゼロからの出発になりました。勝手も違い、用語もわからない状態で数か月が過ぎたとき、あの新潟県中越を震源とする中越地震災害が起きました。

発生後、福島県土地連にも災害派遣要請があり、その派遣隊に私も選ばれました。

地震災害どころか、災害そのものを見るのが初めてであり、何をやればいいのか災害設計とは何んぞやという有様、現地を毎日右往左往するばかりで今思い返してもほとんど足手まといの状態だったと思います。派遣が終了した時に「もし次があるならもう少し戦力になれる様にしよう。」と思いました。

それから7年後、東日本大震災が起きました。その被害は尋常では

なく被災箇所も多数であり、災害査定など目まぐるしい毎日でしたが、中越地震の時よりは少し災害復旧事業に尽力出来たと感じています。振り返ってみると測量に始まり、色々出来ることが増えたと感じます。これからも自身の技術に磨きをかけて行こうと思います。

まだまだ未熟者ですが、これからも福島県土地改良事業団体連合会の一員として、微力ですが福島県の農業農村のため邁進して行きたいと思っています。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。



第39回全国土地改良大会石川大会開催

「水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」



第39回全国土地改良大会は、平成28年10月25日(火)午後1時より、石川県金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」において、全国から約4,300名の土地改良関係者が集い開催された。

式典では、水土里ネット石川西村会長が開催地を代表し、大切な農地農業用施設を次世代に引き継ぐため、一丸となって土地改良に取り組みたいと挨拶した。

続いて、全国水土里ネット（水土里ネット和歌山）二階会長が主催者を代表し、現地視察を通じて

土地改良が石川県の農業に果たしてきた役割を肌で感じ、あらためて我々に課せられた使命の重要性を認識していただきたい。土地改良を通じて各地域の課題をいかに解決し地域農業の振興にどのような貢献ができるかについて考える絶好の機会にさせていただければと呼びかけた。

このあと、来賓祝辞、土地改良事業功労者表彰式が行われ、本県からは、前会津若松市湊土地改良区理事長堀内治氏が「農村振興局長表彰」を、前葛尾村長松本允秀氏が「全土連会長賞」を受賞した。

基調講演、大会宣言の後、水土里ネット石川より次期開催県である水土里ネット静岡に大会旗が引き継がれ、式典のすべてを終了した。（第40回の静岡大会は平成29年10月25日開催）



土地改良事業功績者

農村振興局長表彰受賞

堀内 治氏

前会津若松市湊土地改良区理事長

(写真左)

全土連会長賞受賞

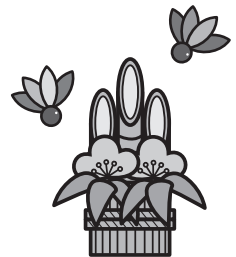
松本 允秀氏

前葛尾村長

(写真右)



年男・年女



年男

新年に思うこと

水土里ネット福島

安田 明

明けましておめでとうございます。
還暦・初老、今まで気にもしな
かった言葉でしたが、いざ自分が60
歳を迎えようとする感慨深いもの
があります。

もし誰かに「あなたは、何をして
いる人ですか？」と尋ねられたらな
んと答えるか。団体職員・サラリー
マン・設計者・測量者・兼業農家？
どれをとっても中途半端で自信を
持って答えられるものがあるのか悩
んでしまいます。

俗に「五十にして天命を知る」「六
十にして耳順う」と言いますが、私
の天命はと考えると、ほ場整備事業

の設計かな？勿論、天命などと立
派なものではありませんが、給料を
もらうため、生活のため、ほ場整備
の設計をやってきただけであり、人
様に誇れるものでもありませんし、
ましてや学会等で発表するような立
派な設計を行ったことありません
でした。ただし、ほ場整備に携わっ
た地区数だけは、共同施工・団体営・
県営事業等々何十地区もあり、場所
や地区名すら忘れてしまっている状
況です。

昨今、新聞の原発事故関連記事な
どで「○○地域が中間処分場の候補
地となったとか、○○地域で米の試
験栽培が始まったとか、○○集落で
5年ぶりに…」等の記事をよく見か
けますが、以前、自分が携わった事
業地区の名前だったりすることが
度々あります。30〜40年過ぎすつ
かり忘れていた地区名がこのようなか
ちで思い出される事も何とも切な

いものです。又、読むほどに怒り・
悔しさ・頑張れ・負げんなり、など
複雑な思いが込み上げてきます。

これらの地区は、決して立派な設
計ではありませんでした。むしろ地
元の農家の方々からすれば、土地連
の若い担当が設計した使い勝手の悪
いクレームだらけの設計だったかも
しれません。しかし、自分としては、
入社以来、地域の発展を願う心を持
ち、使う人の立場になり設計を行う
ことを信念としてきたつもりであり、

年男

人生、足るを知る

水土里ネット福島

後藤 庸 貴

「むつみ」の原稿執筆依頼があり、
何を書くか考えていたところ、机
上にあつた健康診断の個別面談に持
参する「職業性ストレス簡易調査
票」が目に入りました。適度なスト
レスは精神の健康にとって不可欠で
あると言われていますが、仕事に追
われるとイライラしたり憂鬱になつ
たり、緊張の糸はずつと張り詰めて

今後この思いを大切に土地改良事
業に従事していきたいと思えます。

最後に、酉年は9番目の干支であ
る申と11番目の干支である戌との喧
嘩仲裁の為に、申と戌の間である10
番目の干支となったと言われている
す。私も「六十にして耳順う」では
ありませんが、犬猿に限らず全ての
干支の仲裁役とまではいきません
が、せめてビタミン剤・カンフル剤
的存在になれるよう努力したいと思
います。

いると切れ易くなつてしまいます。
上手に働きゆつくり休むことが必要
なのでしょうね。そんな時こそ「忙
中閑有り」、心の栄養剤となる「趣
味」の出番です。

「趣味は？」と問われると中途半
端なものばかりでその道を極めたも
のは無く、これまでやってきたもの
と例えば、詩吟、仏像彫刻、家庭菜
園での野菜作りくらいでしょうか。

詩吟は学生時代に下宿の先輩に誘
われて始めたもので、人は心身の根
元となる活動力である「気」を持つ
ていて、これは自ら努力して養って
いかなないと盛んにならない、「詩吟
は気を養うもの」と教えられ、かれ

これ40年くらいになります。私の好きな漢詩の1つに唐代の詩人である李白が詠んだ「静夜詩」があります。興味のある方は一度詩文をご覧ください。詩吟は大きな声を出しますのでストレス解消にもなります。お勧めですよ。

仏像彫刻は、震災前にイトーヨーカドーカルチャーセンターの講座で習い始めて以来7年くらいになりますが、閉講となった現在でも様々な仏像の写真を見たり、博物館やお寺を訪れ仏像を拝観しながら独力で続けています。彫刻刀で彫るため、大きな仏像ではなく台座を含めた高さでせいぜい30cmから40cmくらいが限界ではありますが、彫り上がると一人悦に入って眺めています。お体はそれなりに彫ることができませんが、お顔がなかなか難しい。悟りを開き慈悲のまなざしを持って遠くを見つめるような仏様の顔ではなく、どうしても人間の顔（妻が言うには「あなたの顔つき」）になってしまいました。「仏像を彫っている時は無心なのでしよう」と聞かれますが、仕事や遊びのことなどいろいろと頭に浮かび云わば雑念・煩惱の塊ですね。

「仏師 後藤鷲風」(鷲風は詩吟の雅

号で、仏像の落款印にも使っています)となるにはまだまだ遠い道のりです。

「梅檀は双葉より芳し」という言葉は、将来大成する人物は子供の時から人並みはずれて優れたところがあることの例えだそうです。また、この対義語として「大器晩成」という言葉がありますが、これは古代中国の老子の言葉で大きな器が早く出来上がらないように、大人物は世に出るまでに時間がかかるという意味です。

趣味の世界を含め我が身を振り返るに、既に「双葉」の時代は梅檀にならぬまま遠い昔のこととなり、産まれてから5回目の年男となる今になっても、残念ながら「晩成」と言われるような兆候は全く見られませぬ。「人生、足るを知る」ですかね。ま、ゆつくりぼちぼちと前へ進んで行きましょう。



年男

抱負宣言

矢吹原土地改良区

酒井勇司

事の始まりが、11月上旬の金曜日午前でした。勤務中のところ土地改良事業団体連合会から本稿作成依頼が私宛に送達されたのです。書面を拝読したところ、「年男年女になっての抱負」についての寄稿依頼でありました。私の35年間の人生を振り返りますと、お恥ずかしい話ですが、抱負など樹立した試しがなく、日々の業務、私生活を禅僧の如く一期一会の精神で完全燃焼する様な生き方でしたので、本件の依頼を受けて正直不安が募りました。然しながら、今回の依頼を機に、不慣れながら今後の自身のあり方について本稿を通じて皆さんに所信表明したいと存じます。

矢吹原土地改良区に職を拝して早くも7年目の歳月を経ました。この間を振り返りますと、東北地方太平洋沖地震災害、平成23年度第15号台風災害、矢吹町役場への出向辞令、平成25、28年度の羽鳥ダム渇水騒ぎ等の出来事が発生しては、額に

汗して無我夢中で精勤していたと自画自賛する一方、私生活では、自身に宿る短気な性格が災いして数多くの失敗を経験しました。「短気は損気。」と私に事が有る度に言い聞かす祖母も、今年で74歳。最近では足腰が弱り、以前より老けてうつりま

す。これに併せ、小学2年生の我が子に於きましては、益々私の性格に似て行く様を観ますと、親として不安が募るものであります。今まで通り私の不徳を諫めてくれた祖母に、これ以上甘える事が出来ないと思感すると同時に、我が子が私と同じ様に短気で失敗しない様にしなければならぬと強く思うものであります。今まで出来事を振り返り、私の欠点であります「短気」を克服するべく、次回年男を迎える平成40年を迎える間、日々の生活に次項の行動規範を取り入れ、「短気」撲滅作戦を展開したいと存じます。行動規範の内容は左記の通り。

(1) 飲酒は自宅で行うものとし、厳正な監督者の指揮の下、適正量のアルコールを摂取するものとする。但し、業務上必要があれば例外を認めるが、二日酔いに至る摂取はこれを認めない。

(2) 背筋を伸ばし呼吸は深く、

ゆつくり行う事を旨とする。浅い呼吸は短気を増長するものとして理解するべし。

(3) 公私ともに素直に感謝する事に留意せよ。奢らず、初心を忘れるべからず。

以上の3項目を今後の我が行動

年男

酉年を迎えて

阿武隈川上流土地改良区

宮田 洋

新年あけましておめでとうございます。

年男・年女ということで執筆の依頼がありました。

何を書こうかと思いましたが、まずは昨年も天候に翻弄される年ではなかったでしょうか。土地改良区の皆さんにとっても水の管理で大変ご苦労されたことと思います。

私も県南地方の阿武隈川の最上流部にある西郷ダムの管理をしておりますが、ダム放水にはかなりの神経を使いました。

水不足の時に、受益地内の水田に

規範とし、厳粛に運用を開始したいと存じます。次回の年男を迎える際には、酒井勇司から「短気」が完全に消えた事を皆様に報告出来る様、日々邁進したいと抱負宣言し、結びとさせて頂きます。ありがとうございます。

水をまんべんなく供給するために、各堰の管理者の協力が不可欠となります。当然情報の共有も必要です。このような時には役職員だけではなく、地域の組合員の協力もいろいろな意味で必要だと思います。

今年の4月中旬頃に、ある人が「いつもなら雪溶けが始まってでも残雪のある所に今年は雪が見られない。水不足になるだろう。」というようなことを話しておりました。年の功といえますか、経験からくる言葉だったのではないかと思いましたが。本当に雪が少なく、雨が欲しいときに降らないという年でした。

収穫の時期を迎えますまずまずの収穫量ということ聞きホッとしました。一部の地域ではかなり水不足の影響が出たところもあるようですが、自然を相手にする仕事は今更ながらほんとうに大変だと感じました。

地球温暖化による異常気象が作物にもたらす影響、農業の後継者の問題、TPPはどうなるのだろうかなど、様々な問題が農家のみならず農業に携わる我々土地改良区にも、また生活者にも影響を及ぼしてくるでしょう。

紆余曲折、山あり谷あり、日本の農業だけではなく、いろんな産業もこれから問題を抱えていくでしょう。これからのような道を歩んでいくのか、農業者だけではなく、国民も、明るく前向きに進んでいくしかないのかもしれない。

アメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利には驚かされました。想定外、予想もつかないようなことがいろいろと起こるものです。あとは、それがよい結果に結びつけば言うこと無しということなのでしょう。

福島県は原発事故による放射能の問題を抱えて、放射線量は徐々に下がってきているものの、未だ風評被害が払しょくされない状況が続いているようです。そのような中でも、徐々に明るいニュースも報じられてきているようです。

最近、日本の食文化が海外でも話題になって、健康志向とも重なり人氣が出てきて広がりを見せているよ

うです。食は農業にも通じます。日本の農業は、まだまだ発展していく余地はあるのではないかと思います。

また、大学生や高校生、そして若い人たちが真剣にいろいろなことに一生懸命取り組んでいる姿が、マスコミ等で報道や紹介されるのを見ると大変勇気づけられます。

まだまだ若いものには負けられないと思う年齢になりました。「土地改良区の皆さん、それに関係者の皆さん共に頑張りましょう。」と思いつくままにとりよめのないことを書いてしまいました。

年男・年女への執筆はこれで最後になりますが、福島県土地改良事業団体連合会、関係者の皆様方には御礼を申し上げます。



年女

感謝と笑顔を忘れずに

会津北部土地改良区

羽 金 明 美

「鶏は三歩歩くと忘れる」と言われますが、私はまさにそのとおりの酉年になります。

ただでさえ忘れっぽいのに積み重ねてきた年のせいで、脳の働きも鈍くなり、目もかすみ思い出すのも一苦労、失敗する事も度々です。

年女の新年の抱負ということで、原稿依頼をお受けしましたが、頭を抱えて四苦八苦です。

前回の年女の時は？どんな年だったかなあ？と考えてみたら新年早々勤めていた会社が倒産するという最悪の出来事が起こった年でした。そしてその年は12年周期でやって来るという「大殺界」の年（懐かしい〜！知ってますか？）だったのでです。二と二ということは今回もその年が回ってきたって事で……恐ろしい事です！大殺界の年は何も事を起こさず静かにおとなしく過ごさずしかないそうです。なのでとりあえず心と体の健康の事だけを考え時が過ぎるのを待つ

ようにしようかなと思っっているところです。

TVで体に良いという情報を見るとすぐに飛びついてますが、残念ながら長続きはせず、今だ効果が表れていません。足腰が弱らないようにと特別な運動はしていませんし、成人病予防検診では毎日汗をかきほどの運動をするようにとの指摘をいただきましたが、なかなか実行には移せず（気持ちはありません）、せめてもと買い物に行った時など、階段を使うようにはしていますが。足腰が弱るとどこへも遊びにもいきませんもんね。頑張ります!!

先程の以前勤めていた会社での仕事で「土地改良施設使用申請」のため、いくつかの土地改良区さんに伺ったことがあります。なので土地改良区との関わりはちよつとだけあったわけですが、まさか自分が職員になるとは思はずもなく、今思うと縁があったという事でしょうか？会社の倒産があったから、現在の私がある訳で大変な思いもしました。が、今はとても恵まれた環境で仕事をさせていただいている事に感謝しております。

ここ3年の間で姑と私の両親との別れもあり、また私自身も命の大切

さ、普通の生活を送れるという事がどれだけありがたい事か思いしらされる経験もしました。そんな辛い時期を乗り越えられたのも、周りの方々の支えがあったからです。職場の皆さんからも暖かい言葉と励ましとご協力をいただき、それもまたまた本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

辛い事ばかりでなく良い事もありました。孫が生まれ命の尊さを改めて感じさせてもらいました。今は、穏やかな気持ちで毎日の生活を送っています。ジジ・ババ2人だけの暮らしに娘から送られてくる孫の動画と写真に癒しと希望と笑顔を与えて

年男

今年が主役の1年

水土里ネット福島

伊 藤 慎之介

新年あけましておめでとうござい
ます。

今年で3度目の年男を迎えること
となりました。まだまだ若いつもり
でおりましたが、気が付けばいつの

もらっています。

これからもずっと成長を見守って
いけるために、元気でいられるため
にと懲りずにまたTVの情報に影響
され続けることと思います。そして、
良い事が寄ってくるように明るく前
向きに考えるようにしていきたいと
思っています。

皆様も無理をせず、日々の業務に
追われお忙しいと思いますが、お体
を大切に、明るく楽しくお過ごし
ください。

そして全ての人々が笑顔で平和で
暮らせる世界になりますようお祈り
いたします。

まにかに36歳。昨年は健康診断の結
果初めて要精密検査となったことも
あり、体力的な衰えを感じ始め、
少々悲しく思うところです。

平成19年の4月に入会しまして、
あつという間に10年が経過したよう
に感じました。この10年間、充実し
た土地連ライフを送ってきたのも上
司、先輩方の御指導、御鞭撻のおか
げであり、また同僚の協力、家族の
支えがあつてのことと深く感謝して
おります。

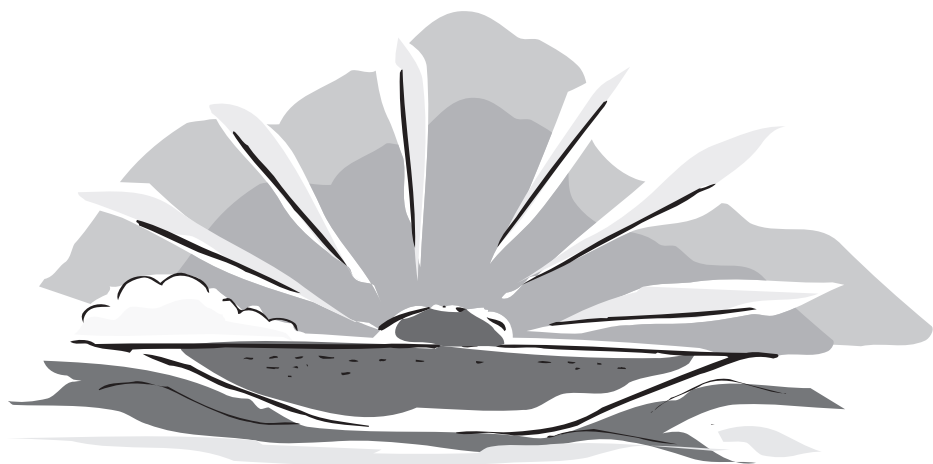
これまでの2回は、干支や年男ということ特に意識して生活するということはありませんでしたが、今年も節目の年として改めて今年を振り返り、目標を明確にしてこの1年頑張っていけるようにしたいと考えています。

酉年生まれの特徴の一面として、「酉年は柔軟性がなく、自分本位になりがちになる」と書かれている資料がありました。酉年の人全員がそれに当てはまるとは思いませんが、私の場合はとても納得出来る部分がありました。私は、仕事面でも私生活でも、これと思うと他の選択肢や周りの状況などが余り見えなくなってしまう頭でっかちな性格で、結果後から考えればもつとこうするべきだったと後悔する事がしばしばありました。正しい状況判断やそこから先を読み全体を見通す力を付けることが私の課題となっています。そのため、現状の自分の選択に満足するのではなく、日々の振り返りを大切にして、柔軟な思考を持てるよう取り組んでいこうと思います。

また、今年で11年目ということで、年々後輩も増えてきました。私が入会したてで働き始めた時の先輩方は、とても頼りになる大きな存在

で、先輩がいることで何かあっても安心して仕事に取り組めておりました。今度は私も指導される立場から、そんな先輩の指導する立場にならなければいけない。後輩や、そして会員にも頼れる存在になれるよう、知識や技術だけでなく、人間力の向上にも力を入れていきたいと考えています。

酉年の酉の由来は、「果実が極限まで熟した状態・酒熟して気の漏れる状態」というもので、そこに漢字と音が似ていて身近な動物の1つである「酉(とり)」の漢字をあてたものようです。酉は「取り込む」に繋がるといわれ、そこから運氣もお客も取り込めるということから、酉のつく年は商売繁盛に繋がると考えられています。また、「果実が極限まで熟した状態」という由来から、酉年は物事が頂点まで極まった状態を表す年といわれています。まだまだ何かを極めるまでには到底及んではおりませんが、いろいろなものを取り込んで、公私ともに充実した1年を過ごせるように、日々精進していきたいと思っています。そして、今年も主役の1年ということを楽しんでいきたいと思っています。



新会員の みなさんより

土地改良区職員と なつてのご挨拶

四時川沿岸土地改良区
猪狩 智彦

会員の皆様、はじめまして。この度、平成28年4月1日より、四時川沿岸土地改良区にてお世話になっております猪狩と申します。いわき支部の諸先輩方、当改良区理事長はじめ役員の皆様、総代の皆様、そして組合員の皆様におかれましては、日頃より大変お世話になっておりま

す。この場をお借りいたしましたして厚く御礼申し上げます。

本日11月11日筆をとっている次第でございますが、本当にあつという間の7か月でした。お世話になる以前は、土地改良区というものについて全くの無知でございましたので、自分にとっては日々すべてが新鮮でそして勉強になることばかりです。

現在は会計を主として職務にあつておりますが、日々の会計、賦課金の徴収も含め、『1円の重み』というものを痛感しております。前職が某地域密着型のスーパードメインでの主任でしたので、モノの値段という点におきましては人一倍シビアではありましたが、実際に土地改良区での会計というものに7か月携わつてみて、1つの団体の会計の処理とはここまでしっかり管理されるべきものなかと、驚きと感動をもって職務を遂行している毎日です。

現在当土地改良区は、ほ場整備事業の最中であり、日々刻一刻様々なことがあります。そのすべてが初めての経験で、自分はまだまだ戦力にはなれておりませんが、事務局長の迅速・かつ適切なご対応を1から勉強させていただき、1日でも早く通常業務に慣れ、事業にも本格的に参

加させていただきたいと思っております。

また、この7か月の間に様々な研修に参加させていただきました。非常に参考になったり、勉強になったりと、多くの事が1つの研修ごとに自分の実になっていけると実感し、感謝しております。

現在当土地改良区施設台帳の再確認を進めるにあたり、今後の当土地改良区の課題といたしましては、『施設・水路の老朽化の補修・整備』が第一であると考えます。『地元負担を1円でも少なく』補修・整備を行つていきますよう、どの事業で行うことがその場所その場所ですべてなのか、様々な研修や今後の経験から学び、多くの引き出しを持てるよう、邁進していく所存です。

新人のご挨拶ということで、あえて堅苦しい文面になりましたが、今後とも明るく元気に職務を樂しむ気持ちで、日々是鍛錬の精神で邁進していく所存でありますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。

20年ぶりの 改良区です

母畑地区土地改良区
柏村 國博

私は、平成28年4月から母畑地区土地改良区にお世話になっております柏村と申します。

以前は、昭和51年から長沼町役場で県営・団体営・小規模圃場整備事業を約20年間担当してきました。現在は須賀川市と合併して町ではありませんが、長沼地域には江花川沿岸土地改良区があり、震災で藤沼ダムが決壊し、ようやく平成29年に完成をするようです。

この改良区にお世話になりながら、県営事業を行い、この区域外の地区は団体営や小規模で整備をしてきたところです。

この藤沼湖からの用水と江花川からの取水区域を含め、約1,000haの農地整備にかかわつてきました。

当時は、1坪も農地を減歩したくないと受益者から言われ、農道幅を広く計画しても反対されたりしました。

それでも、3地区に分かれて整備をする中で、他地区の整備状況を見て受益者や役員の考えも近代的に変わってきたことを覚えていきます。

須賀川市と合併後は、農政業務ではなく、市民課・税務課・収納課・公民館といった部署を経験して、今年の3月に定年退職をいたしました。

当土地改良区の退職者が複数あったことから、私の退職後の再雇用先として話があり、現在お世話になっているところですが、実際に業務に携わってききましたが、国営事業の経過年数や償還金の返済期間がまだ17年残っているなど、私が担当してきた時期より早く始まって、まだ多くの問題を残したまま受益者の事業完了には至っていない現状に驚いています。

特に今年は、異常気象による渇水のため、千五沢ダムの用水供給停止を行ったため、受益者からの苦情が毎日事務所であり、職員の精神的な負荷が大変でした。また、耕作放棄地や後継者不在による償還金の滞納も増加しています。夢を抱いて事業参加をしたのが親で、その借金が40年後の後継者に回ってきて、夢も希望もなく、農地の相続放棄まで出てきている状況には、国営事業に早急

な国の対策が必要と感じています。課題の多い業務ですが、経験を活かして努めてまいりますので、今後とも宜しくお願いいたします。

土地改良区職員 となつて

請戸川土地改良区

大友 英樹

平成28年10月から「請戸川土地改良区」で勤務しております大友英樹と申します。双葉郡浪江町の生まれの44歳です。

今回採用される前までは、製造業に携わっていました。震災後は、勤め先の移動指示で石川県金沢市へ行き、5年5ヶ月滞在しましたが、今回採用していただき福島県へ帰ってきました。

震災前まで実家は兼業農家で、田んぼ・牛と手伝い、20歳からは趣味で狩猟をしていたので、河川・溜池と巡り歩きました。また、消防団にも所属しており、放水訓練では地元・青根場用水路の水を使用したりし、その殆どが請戸川土地改良区に関わって居る所と知り驚きました。

勤務してから知る「地名」の漢字

の読み方など、特に「賦課金」は資料を貰ったその場で「読み方・意味」を聞きました。難しい漢字・旧漢字などもあり、組合員さんの「氏名」も旧漢字ならその通りに表記すると教わり、画数で検索したりし、先輩達から分かりやすく各種業務を教えて頂き、とても感謝しております。

採用されて1ヶ月後に実施した「ほ場整備事業」の従前地調査では、組合員さん達が記入される「土地評価表」の項目の意味を、現物を見て理解出来、大変勉強になりました。

請戸川土地改良区も管轄地で有る、双葉郡浪江町・双葉町・南相馬市小高区の3地区の内、南相馬市小高区へ平成29年に「大柿ダム」から震災後初めて農業用水を流します。私も請戸川土地改良区職員として色々な「期待」と「不安」が有ります。

水路に水が走り「美しい田園風景」が復活するという「期待」、放射能汚染から来る風評被害、一番は農業従事者の減少による担い手不足など「不安」を挙げれば切りが有りません。私も今までに経験した事の無い事を（嬉しい事・嫌な事・悔しい事）業務で経験するでしょう。その経験を積み重ね、同僚達・組合員の皆さんから必要とされる様に日々

の業務に努めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお願 いたします

請戸川土地改良区

菅野 真陽

会員の皆様はじめまして、平成28年10月より請戸川土地改良区南相馬出張所で勤務しております、菅野真陽（かんの みちあき）と申します。出身は南相馬市原町区です。年齢は昨年の8月で27歳となりました。自分としましては、随分と歳をとってしまったと感じておりますが、社会人としてはまだまだ若輩者だと思えます。

大学時代は野生動物について、または人間と動物との関わり方についての勉強をしておりましたが、農業について深く携わるのは、今回の仕事が始めてのこととなります。

土地改良区の仕事につきましても、過去の広報等を拝見させていただきましたが、河川の管理や、土地の整備が主な仕事という風に、漠然とした印象しか持っておりません

した。

しかしながら、実際はダム堤体の観測業務から排水路の清掃、ダム水面を漂流する流木の撤去など様々な業務があり、それらを約1か月間の中で一気に体験させていただきました。ダム堤体の長い階段の昇り降りや、水分を吸って重さを増した流木の除去など、体力を使うことが多々あり、お恥ずかしながら体は鍛えねばと痛感しました。

11月に入ってから、飯崎地区の土地評価業務にも微かながら携わらせていただき、地権者の方と一緒に従前地を周らせていただきました。実際に広大な土地を歩いて感じた事は、人様の財産を預かるという強い責任感と重圧でした。

私自身は、まだ本格的な土地改良の仕事には触れさせていただけの立場にはありませんが、少しずつ着実に土地改良に関する知識を増やしていきたいと思えます。

1日も早く先輩方や地権者の方々の役に立てるよう、誠意努力を続けていく所存ですので、何卒よろしくお願いたします。

改良区に勤めて

安積疏水土地改良区

三好 敦博

初めまして。平成28年度から安積疏水土地改良区にお世話になっております三好と申します。

今私がお世話になっている安積疏水土地改良区には、十六橋水門をはじめ、上戸頭首工、田子沼分水工などの歴史的にも価値のある施設や東日本大震災以降、需要が高まっている自然エネルギーの1つの小水力発電所があり、見学者が多く訪れる場所があります。

こんなに多くの貴重なものがある本改良区ですが、正直言うと、私は土地改良区の仕事はどんなことをして、何であるのかをあまり知りませんでした。祖母が農家をしていたので、農業というものには長年関わっていました。その農業と土地改良区との関係はどういったものなのか、はつきりとは理解していませんでした。そんな気持ちでしたので、本改良区に勤め始めてからすぐ戸惑いと疑問が多く出てきました。一番戸惑ったのは、水路の数です。水路

と言っても、多くて50個くらいなのだろうと高をくくっていました。安積疏水には、管理線が283路線(約530km)もあり、場所も本宮から須賀川まで広範囲に大きいものから小さいものがあるということを知りました。私は水利課に属することになったのですが、基本の仕事として「水路巡回」があり、通水期にはその水路を見に行かなくてはならないので、その場所を覚えるのに苦労しました。

はじめは自分がどこを歩いているのか、どこを走っているのか、分らなかつたのですが、先輩方の指導により何とか基本的な巡回の場所を覚えることができました。

しかし、覚えた所など基本的なものなので、まだまだであるとも思っています。現に「〇〇線のところに向かって」と言われても、そこがどこなのかわからない時も未だにあります。今後はそういった場所をなくし、覚えられるようにして、少しでも先輩方に聞き返すことを無くしていこうと思えます。

また、今年度はさまざまな研修会に参加する機会を与えていただき、福島県の他の土地改良区の方や、他県の方々とお話しさせていただく

とことができました。研修内容もそうですが、情報交換会なども、貴重な話やタメになる話を聞くことができました。今後、研修に行ける機会があるときには、積極的に参加させていただきます。ただこうと思っています。

まだまだ半人前の私ですが、安積疏水の業者・組合員の方のご要望や問い合わせに戸惑うことの無いように、上司・先輩方々から指導していただき、これからもつと経験を積み重ね、1日も早く一人前になれるように精進して参りたいと思います。今後も土地改良関係の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

宜しくお願いたします。

そうま土地改良区

小山田育生

平成28年4月より、そうま土地改良区に勤めております小山田と申します。

文才がない私ではありますが、精一杯書かせていただきます。

さて、私は生まれも育ちも相馬市で、当土地改良区に入職する前は、地元金融機関で渉外業務を担当しておりました。「土地改良区の仕事」

という賦課金の徴収をする事と、農業用水の維持管理を行っている事しか分かりませんでした。そんな無知な私に、副理事長はじめ各地区の理事さん達に「入ったばかりなのだから、分からないのが当たり前。一つ一つ上司の人に教えてもらいながら、仕事を頑張りなさい。」と激励の言葉をいただき、改めてそうま土地改良区の為、組合員の皆様の為に頑張ろうと決意しました。

業務内容につきましては、総務課に所属し、主に会計事務や賦課金徴収等を担当しております。以前、金融機関に勤めておりましたので、組合員の方々に賦課金等の説明を分かりやすく出来ると思っておりましたが、なかなか説明ができず、最初は悪戦苦闘しました。今では、先輩方のご指導をいただき、賦課金等の説明を組合員の皆様にすることができるようになりました。

最後に、入職から8ヶ月が過ぎ今後も学ぶ事が沢山ありますが、徐々に業務の流れも覚え、仕事ができるようになりました。ここまで成長出来たのも、温かく見守っていただきフォローしていただいている土地改良区の先輩職員の方々のお陰です。ありがとうございます。これからも、

自分の役割を十分理解して、業務に責任を持って精一杯努めて参りたいと思います。今後とも、ご指導宜しくお願い致します。

第2の人生

山都町土地改良区

鈴木 篤

私は、平成28年1月から山都町土地改良区に勤務しております鈴木と申します。宜しくお願致します。

入職して早いもので1年近く経とうとしております。

私は当土地改良区に勤務する前の数年間は、町外で仕事をしており、農業関係に携わる事は殆どなく、地元に住ながらも自然の豊かさ、魅力に気が付くこともありませんでした。

そのような中で縁があつて、当土地改良区にお世話になることになり、土地改良区の仕事は何をするのか、どのような取り組みをしているのか、無知の状態で不安の日々を送った事を思い出します。

実際に仕事に就いてから、その不安は大きくなり戸惑う毎日で、早速専門用語や様々な事業内容について話があり、経験のない私は用語の意

味を調べてもなかなか理解が出来ず何度も調べ、確認する事がありました。

そんな時に事務局長をはじめ理事の方々から「最初から出来る人はいない。なんでも聞きなさい。」と声をかけていただき、勇気づけられました。

現在は事務局長と2人で業務に取り組んでおり、私はほんの一部ではありますがありますが、組合員の方々の耕作状況確認、賦課金や償還金の会計事務、日々の収入・支支出納処理、理事会・総代会の資料作成等の事務補助に携わっております。

最近はいくつかの研修会に参加させていただき、水士里ネットの活動や様々な事業内容について知る良い機会となっており、また他の土地改良区の方々との情報交換や、日々の業務について有り難いお話を聞くことが出来、得るものが多い研修となっております。

他に事務処理だけではなく、現場に出向く事により改めて地元の自然の豊かさを感じ、また農地の整備や農業水路、揚水機等の維持管理、堰や頭首工等と先人方の知恵や苦勞された事に感心致しました。

まだまだ知識・経験の浅い私が言

うのもどうかと思いますが、他の土地改良区でも問題とされている農業後継者不足・高齢化・耕作放棄など課題が山積みで、当土地改良区においても深刻な問題となっております。

その為にも私自身、しっかりと業務に携わって行かなくてはなりません。しかし未熟者であり、まだまだ1人では何もできません。この先も色々な壁にぶち当たり戸惑いや不安の日々があると思いますが、マイナス思考を取り払い、経験や研修を重ね一歩一歩ですが前進して、業務に努めて参りたいと思っております。

最後になりましたが、組合員の皆様や役員の方々、そして県土地改良団体職員の皆様、今後共ご指導の程、宜しくお願致します。

土地改良区業務に携わり

昭和三十九年度

栗城 進也
馬場 歩

平成28年度の人事異動により昭和三十九年度の土地改良区業務は、和村役場産業建設課長の栗城進也と産業建設課産業係主事の馬場歩

が出向で昭和村土地改良区事務局を務めることになりました。

当土地改良区は福島県会津西部に位置しており、標高1,000mの山々に囲まれ、地勢は急峻な中山間地域にあります。本村には阿賀川水系の野尻川が貫流し、狭長な谷底平野を形成しており、主な圃場では米や蕎麦、かすみ草を農産物として栽培しております。農産物以外にも、古くからの伝統を守り継いだからむし織も主な産物となっております。本村は特別豪雪地帯であり、冬になると最高積雪量は2mを超え、平坦部の標高は海拔400〜750mの高冷地で厳しい自然条件の中で農業経営が行われております。

そのような土地にある当土地改良区は平成18年度をもって主要区域の圃場は区画整理が完了しており、整備された農業用施設は村や各集落において維持管理され、土地改良区の業務としては償還業務と耕作放棄地等の解消を目的とした、大型トラクターの貸出業務となっております。

その他に、本村は農水省が実施している多面的機能支払交付金事業に10の組織が参加しており、その事務を当土地改良区が受託し集落の農用地保全活動を支援しております。

近年、当土地改良区の組合員の中には、村外に移住し農業に従事して

おらず事業に携わったことがない世代が増え、賦課金を理解されないまま未収金になってしまふ場合があります。そのため、組織のあり方や必要性に疑問を感じる組合員が増えてきているなど今後の懸念材料となっております。他にも、大型トラクターの使用時間や回数は農用地利用改善組合などの団体により年々増加しておりますが、購入から約8年が過ぎようとしているため、メンテナンスや修理費が間に合っていない状況にあり利用者の都合に合わせた貸出ができない場合があります。また、本村は少子高齢化の加速により農業者に担い手が減少し、確保も難しい状況にあるため、耕作放棄地の拡大が懸念され、今後の活用方法の展開が必要になるのではと思われれます。

これらの数々の課題や懸念材料がある中で当改良区の組織運営も難しいものとなっておりますが、土地改良関係各機関の方々のご指導、ご教授頂きながら日々の業務を熟して参りたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

新入会員です

小田高原土地改良区
大川原正義

初めまして。私は、今年4月より小田高原土地改良区の事務を引き継いでおります大川原正義と申します。前事務員が一身上の都合で、どうしても退職せざるを得ない状況になったことから、急きよ事務仕事をすることになった次第です。

私自身、後継者に経営を移譲したことによって、組合員としての資格を喪失し、加えて、永年在籍していた役員もやめることになったことが重なり、このような事態が発生したわけですが、何せゼロからのスタートなわけで、今でも何から手をつければいいのかわかりません。よその大きな改良区さんと仕事の量は違っても中身はほとんど同じだと思われれます。時々パニックって、「あー引き受けなきゃよかつた」と後悔する自分があります。

話は変わりますが、数年に一度、指導機関による監査が実施されますが、そのたびにそれぞれの改良区の事情に見合った監査や、指導が出来る

ないのかなと思っております。

指導する側としては、きちんとその規約や、規則に沿った運営経理がなされているかを見なければならぬことは承知していますが、私どものような組合員数がたかだか50名足らずの小さい改良区を、数千人も抱える改良区さんと一緒にしないでくれって言いたいです。そこに、輪をかけたように、指導機関は人事異動によって引継ぎがなされていなくなったりして、同じことの繰り返しのように、重箱の隅を突つつくように、あら探しをするみたいに、あーだこーだ言うし、不平不満だらけです。言えずでしようか？（普段はこのようなこと面と向かって言えません。）

とにかく、わからないことばかりですので、優しく見守っていただいで、ご指導賜りますようお願いいたします。

土地改良(区)ってなに？

福島市土地改良区
鈴木 信良

2年ほど前に、昆虫や地域の原風景を撮っているプロカメラマンであ

り、切り絵作家の「今森光彦氏」を拙宅に招いて食事をとりながら話をしたことがある。今森氏は、琵琶湖の環境を撮り続けていて、その変化と変化の理由も説明すると同時に、琵琶湖の環境の成り立ちをも説明している。

琵琶湖のいたるところに、以前は葭原が広がっていた。湖の護岸工事により葭原が消滅し、圃場整備や排水路の三面化によって、土砂の流入が少なくなり鮒ずしの材料になる「ニゴロブナ」が激減したと言う。ニゴロブナは、春先の雨等によって濁った水が琵琶湖に入ること、産卵が促され水路を遡上して産卵すること、濁り水が発生しないと産卵しないということになる。また、圃場整備や河川改修の結果、貴重な草本類が消滅しているとも話された。だからといって、圃場整備や河川改修をやるなどという立場で話をされた訳ではなく、事実を説明していただいたと思っている。

私も、ゲンジボタルが乱舞していた場所を含めて、圃場整備を担当したことがあり、そこからはホタルの乱舞が消えてしまった。共生できるプランが間に合わなかった。この現場に自分も関わっていたことの痛み

がいまだにある。多様な環境を受け入れることができない時代だったのかも知れない。

日本の国土は、水田農業を行うことで整備されてきたと思っている。農業用水路・排水路は地域の生活環境を良くし、生物多様性を結果的に育んできた。しかし、多くの農業者は自分達が管理している用水路・排水路がいかに地域に貢献しているか、動植物の種の多様性を育んできたことへの意識がない。これは、反射的利益を受けている分野から、農業者に対し利益の分配がないからと、水田農業がもたらしている効果についての研究が行われていなかったか、行われていたとすれば、PR不足が一番の要因であろう。

数年前から、直接支払制度や多面的機能支払交付金制度等により、漸く利益の分配が始まったと思っている。農業者は、作物だけを作っているのではなく、地域の環境や景観、地域の文化の継承等様々な分野を創っているのだと私は思っている。そこはもつと社会的な評価があっても良いとも思っている。福島市民は、農業用水は勝手に流れていると思っている。頭首工や分水工用水路等は土地改良施設だとの理解度は低

い。つまり農業用水から反射的に利益を受けているなどとは全く思っていない。

土地改良区のこれからの役割として、水環境の重要性とそれを支えているのが土地改良施設であり、水田農業であることを一般の市民に向けて発信し共感を得られるような取り組みをすることが必要だと思っており、努力していきたく思っているところです。

宜しく願っています

安積疏水土地改良区

渡邊 亮太

平成28年4月より安積疏水土地改良区にてお世話になっております、主事補の渡邊亮太と申します。よろしく願っています。

私は、郡山市喜久田町出身で、家の周りに田んぼが広がる環境で育ちました。小学生の頃はよく近所の友達と、田んぼや水路にザリガニやドジョウを獲りに遊びに行っていた記憶があります。また、我が家が兼業農家であったことから幼少期より祖父や父が農業をしている姿を目にしていたため、小学生の頃はザリガニ

やドジョウ獲りなどの遊びと同じくらい一生懸命種まきや田植えなど祖父や父の手伝いをしていました。そのため、田んぼや水路が自分にとつてすごく身近なものと感じていました。

しかし、恥ずかしながら当改良区に応募するまで、水路を流れて田んぼに入る水はどこから流れて来たのか、水路の維持管理は誰がやっているのかなど、農家に生まれながら知りませんでした。採用試験を受けるほど、改良区の果たす役割の重大さに気付かされ、組合員の方々のためにも、福島県の将来、日本の将来のためにも、守り続けなければならぬと強く思いました。そうした想いを持った中で採用して頂いた中で、私はとても幸せ者だと思っております。

また、本年4月に採用となり早いもので、8ヶ月が経ちました。最初は土地改良区に関する知識がなかった私にとって、初めて聞く専門用語（地区除外・換地・市街化調整区域など）や業務内容（口座振替・台帳訂正など）に対し、不安や戸惑いがありました。諸先輩方にご指導いただき少しずつではありますが仕事

の内容を理解し、覚えることができ
てきました。現在は、先輩職員にご
指導いただきながら、口座振替の業
務や、地区除外申請などを一緒に担
当させて頂いてます。また、今年
当改良区において、安積疏水・安積
開拓を結ぶストーリーである「一本
の水路」が日本遺産に認定されるな
ど、喜ばしい出来事もありました。
これもすべて、諸先輩方や関係者の
皆様が長い時間をかけて築き上げ
てきたことの成果であると思うので、
私たちがその想いをしっかりと受け
止めて、10年20年30年と守り続け
ていきたいと思っております。

最後になりましたが、現在TPP
の問題や風評被害、農業従事者の減
少・高齢化といった問題など、農業
を取り巻く環境は厳しさを増す一方
であります。こういう時代だから
こそ、組合員の方々との関係を大切
にし、皆様と共にこの困難を乗り越
えていけるよう、精一杯努力してい
きたいと思っておりますので、今後
ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお
願いたします。

ようこそお願ひごます

そうま土地改良区

小林 憲都

平成28年4月よりそうま土地改
良区に勤めております、小林憲都と
申します。よろしくお願ひします。

私は相馬市で生まれ親の転勤の関
係で去年まで福島市に住んでいま
した。毎年、年に2回ほど帰省する機
会があり、自然豊かな地元である相
馬市で働きたいという気持ちが強
く土地改良区を受験し、採用してい
たきました。相馬の地名は祖母の家
とバッテリーセンターがある場所
しかわからず、土地改良区がどのよ
うな仕事をするのかもほとんど知ら
ない無知からのスタートでした。初
めは不安でいっぱいでしたが、職場
の皆さんに優しく丁寧に物事を教え
ていただき少しずつではありますが
業務を習得できていると思えます。

私は現在、事業課に所属していま
す。用排水の管理や施設の維持管理
などが主な業務です。中でも用排水
の管理が難しいと感じました。その
理由は、毎年答えが同じではないか
らです。時期や天候によって水量を

細かく調整する必要があります。調
整を誤ると水不足になってしまつた
り、逆に水量を減らしすぎてしまつ
と組合員の方から苦情の電話が来て
しまうなどといったことがあり、難
しさを実感しました。

私が土地改良区に入職してあつと
いう間に9ヶ月目を迎えました。今
年は土地改良区として働き始めた1
年と同時に新社会人として迎えた1
年目でもありました。土地改良区で
約1年仕事を経験しましたが、多種
多様な業務内容なのでとてもやりが
いを感じています。

これも周りの皆様に支えていただ
いているおかげです。

来年は今年よりも知識と経験を
積み、そうま土地改良区職員の皆様
や組合員の皆様のお役に立てるよう
努力していきたく思っておりますの
で、これからもご指導ご鞭撻のほど
よろしくお願ひします。

ようこそお願ひごます

水士里ネット福島

石黒 吉亜

初めまして、こんにちは。この度
平成28年度4月より福島県土地改

良事業団体連合会に新入会員として
総務企画部・企画指導課の一員とし
て勤務することになりました。石黒
吉亜です。よろしくお願ひします。
新会員として原稿の依頼を受けまし
たので、僭越ながら述べさせていた
だきます。

私は高校時代に農業土木の分野を
主に学び、その中で測量に興味を持
ちました。その時に福島県土地改良
事業団体連合会から現場見学として
4日間、測量課にお世話になりました。
現場見学で東日本大震災の復興
のための測量を行い、高校では学ぶ
ことのできないことや東日本大震災
の現況を知りました。だから、自分
も福島県土地改良事業団体連合会
で他の測量会社では行わない公共測
量、農業の発展や東日本大震災の復
旧、復興に貢献していきたいと思い
ました。

職務の中で各市町村の役所の方や
企業の方とさまざまな職務を行つて
いきました。南相馬市の農業用排水
施設点検や西郷村の除染業務で東日
本大震災の問題や現場の実態をはじ
め、さまざまなものを学びました。

さて、私が今の職務に就いてから
約9ヶ月が過ぎました。高校を卒業
し、4月に福島県土地改良事業団体

連合会に勤めさせていただきましたが、最初は慣れない事や分からないことばかりで、毎日が不安ばかりでした。しかし、少しずつではありませんが仕事にも慣れ、分からないことが分かるようになり、仕事のやりがいが増えてきました。そしてまだ半人前の私をフォローしてくださる上司の方々には尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。それらを決して無駄にしないよう、もつと経験や知識を積み重ね、1日も早く必要とされる存在になれる様に努力し精進していきたいです。今後とも皆様のご指導のほどよろしくお願ひします。

よろしくお願ひします

水土里ネット福島

浪岡 裕太

平成28年4月より福島県土地改良事業団体連合会にお世話になっております、浪岡と申します。皆様には、何かとお世話になると思いますがよろしくお願ひいたします。

私は、高校を卒業してすぐこの土地連に採用していただきました。採用される前は、福島明成高等学校の環境土木科に通っており、そこでは

主に測量・水理・設計・施工といった農業土木について学んでおりました。そして将来は、それらの知識を生かせるような企業に就きたいと考えていました。就職活動をしていく中で、土地改良事業団体連合会について知り、現場実習に行かせていただきました。実習では今の日本の農業について考えており、現状を知った私は農業を守りたいと考え入社を決めました。

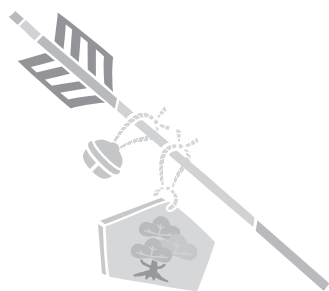
さて、私が土地連に入り9ヶ月が経過しました。私は農村振興部農村整備課に所属しております。初めは、仕事の内容がわからず、高校で学んだ知識の他にも覚えることが多くて、資料などを見てもすぐには理解できませんでした。会議や土地改良区の方々の打合せに参加した時も、1日中何の話をしているのかわからないことが何度もありました。今ではある程度は理解できるようになりましたが、まだまだ覚えることがたくさんありわからないこともありますが、職場の方々を始め多くの方々に教えていただきながら学んでおります。

私の業務の内容としては、圃場整備やストックマネジメントなどのお手伝いをしています。出張で現場に

様のお役に立てるように努力して行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

連れて行っていた際は、レベルやトータルステーションの使い方などを教えていただきながら機械手をやりました。高校にもトータルステーションはありましたが、それよりも高性能なトータルステーションだったので、壊したらどうしようという不安がありました。無事壊さず使うことが出来ました。ストックマネジメントの現場調査に行った際は、コンクリート圧縮試験と暗渠に入り、10m間隔で線引きをやりました。シユミットハンマーを使いコンクリートの圧縮強度を測り、フェノールフタレイン溶液をかけた紙を使ってコンクリートがアルカリか中性かを調べました。シユミットハンマーを使うのは初めてだったので、使った際はなるべく壁と水平にしなければならなかったため、低いところや高いところの力加減が少し難しかったです。暗渠に入った際は、チョークとメジャーを持って、10m間隔で線を引きました。暗渠に入るのも初めてだったので、少し緊張しましたが、とてもいい経験をしたと思います。

私は、まだまだ未熟で知識や経験が不足していますが、1日でも早く仕事を覚え、職場の方々や会員の皆



表紙写真 「ふくしま むらの輝き2016」 写真コンテスト
「雪に負けない」 柏館 健さん

活力ある農業、農村づくりをお手伝いします。

水土里ネット福島はみなさんのパートナーです！

農業農村整備事業の調査・設計・施工管理

農業農村整備事業等は国及び県の補助事業として実施されるため、その調査・設計・施工には、関係機関との協議・調整の下、技術基準の適合性、経済性の説明が求められます。

本会は、この支援に長く携わってきており、高い技術力と経験を備えております。今後とも、より一層の会員サービスに努めてまいります。

ほ場整備事業の支援

ほ場整備事業においては、計画から実施設計、換地処分までを一体的な業務と捉え、技術支援を行ってまいります。計画策定においては、換地計画を見据え、権利者や関係機関との連携により、地域実情にあった計画樹立に努めております。

農業集落排水事業の支援

農業集落排水事業においては、調査・計画・実施・施工管理・維持管理のすべての業務に一貫して携わり、経験豊富な高い技術力を備えた技術者が多数おります。

関係機関との連携の下、適切な処理方式の選定など地域の実情に即した提案に努めてまいります。

多面的機能支払交付金事業や水土里情報システム（GIS）への取り組み

多面的機能支払交付金事業や水土里情報システム（GIS）の構築など新たな事業に、これまでの技術や経験の蓄積を活かして積極的に取り組み、関係機関との連携の下、地域農業の発展や農業農村の振興に貢献するとともに、人・農地プランやハザードマップの作成支援、農業用排水施設の維持管理（ストックマネジメント）支援にも努めてまいります。



水土里ネット福島の登録内容

- ISO9001:2008／JIS Q9001:2008 (H27.2.16付更新、登録証番号JQA-QMA13143)
- 建設コンサルタント (H27.12.3付更新、建27第7079号、農業土木部門)
- 一級建築士事務所 (H24.4.9付更新、第11(404)1975号)
- 計量証明事業登録 (H7.7.3付登録、第環34号)
- 測量業者登録 (H27.9.7付更新、登録第(2)-032811号)
- 浄化槽保守点検業者登録 (H24.5.14付更新、福島県知事登録第1353号)
- 農業農村整備事業発注者支援機関認定 (H28.3.31付認定、第1607号)



みどり
水土里ネット福島
(福島県土地改良事業団体連合会)

〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地
TEL: 024-535-0371 FAX: 024-535-1200
<http://www.midorinet-fukushima.jp/> E-mail: info@midorinet-fukushima.jp